

- ※1 この『出題の意図』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。  
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、平成30年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

**【出題の意図】**

## 一（現代文）

問一 標準的な漢字の知識を試す問題。いずれも文脈を正確に理解していなければ書けない語彙である。

## 問二・問三・問四

いずれも読解力を試す問題。たんに傍線部の前後の二、三行だけにとらわれるのではなく、傍線部の意味を前後のもう少し広い文脈のなかで把握する読解が求められる。問三は、理由を問う問題であり、傍線をたんに言い換えるのではなくその論拠を読み取る必要がある。問二と問四では、論理的な内容を把握するとともにレトリックや概念語の意味を適切に説明する能力が問われており、それらが本文中でどのように言い換えられているのか、丁寧に読み込まなくてはならない。解答に盛り込むべき要素を制限字数内でいかに筋道の通った文章でまとめることができるかを試す問題でもある。

## 問五

基本的には問二・問三・問四と同じ主旨の問題であるが、本文全体の論旨を踏まえることが必要となる点で、より高度な大局的な読解力を試す問題となっている。長文を素材に、個々の論点を的確に押さえながら全体を貫く論理の筋道を正確に読み取るという、論理的思考力がここでは何よりも求められる。しかも解答の制限字数も他の設問より長いため、ただ要素を本文から抜き出して羅列するだけでは十分ではなく、それを論理的に構成し記述する文章構成力も要求される。読解と論述の両面でどれだけ日常的なトレーニングを積んでいるかが問われる問題である。

## 二（古文）

問一 文法問題。下二段活用の動詞を指定された一文の中から拾い出し、終止形に直して解答することを求めた。

問二 『源氏物語』を中心とする平安時代の文学史の流れを理解しているか否かを問うた。

問三 基本的な古語の意味を理解しているか否かを問うた。一つひとつの言葉が適切に訳出されているか否かも考慮した。

問四 主語を補い、指示語の内容を明らかにすることを求め、文脈を踏まえて適切に訳出できるか否かを問うた。

問五 リード文、注を参照しながら、問題文に書かれた事実関係をおさえたうえで、当座（ここは対面場面）の登場人物の心の動きについて理解されているか否かを問うた。

問六 問題文全体についての理解度をはかる問題。併せて和歌贈答によって照らし出される両者の人間関係や心の距離について理解されているか否かを問うた。

## 三（漢文）

問一 基本的な助字の読み方を問うた。

問二 （ア）基本的な構文の知識・訓読の能力を問うた。  
（イ）基本的な再読文字の知識・訓読の能力を問うた。

問三 文脈に照らして意味を補い現代語に訳せるかを問うた。

問四 問題文全体の文脈から状況を理解できているかを問うた。

問五 問題文全体の文脈から登場人物の感情の変化を捉え、その理由を理解し、簡潔な文章でまとめられるかを問うた。